

動物実験に関する自己点検表（2019年度）

動物実験責任者	医療栄養学科 教授 加藤 隆幸						
動物実験・飼育室の設置場所	[REDACTED]						
動物処置室の設置場所	[REDACTED]						
研究課題	医療栄養学科 2年前期必修科目 解剖生理学実習						
動物実験の目的	ラットを解剖することで、ヒトとの違いに注意しながら、器官の位置関係を観察し、解剖学・生理学の基本知識を再確認する。 解剖時に採血し、血球を観察し、血液に関する理解を促す。また、血清を分離し、血液生化学検査についても理解を促す。						
動物実験の実施期間	2019年5月13日 ～ 2019年7月31日						
使用動物	動物種	性別	系統	匹数	入手先	遺伝的保証	微生物学的保証
	ラット ラット	オス メス	Wistar Wistar	12 12	東京実験動物(株) 東京実験動物(株)	- -	SPF SPF
安全管理上注意を要する動物実験	該当しない						
動物実験の方法	5月13日より AIN-93G 精製飼料で飼育を行った。飲料水は蒸留水を自由摂取させた。明暗周期は8:00～20:00の12時間周期、飼育温度23℃、湿度55%、常時換気かつフィルターを通して内外ともに脱臭され、防音設備の整った環境下で飼育を行った。 解剖日5月15, 17日に三種混合麻酔薬（メドミジン+ミダゾラム+ブトルファノール混合麻酔）の腹腔内投与で深麻酔とし、心採血で脱血により安楽死させた。個体は解剖実験に供し、血液は血清を用いた血液生化学検査に供した。また性差についても検討を行った。 本計画では動物に与える不快感は軽微と考えられるので、SCAWの苦痛分類ではカテゴリBに該当する。明らかな体調不良の個体は上記の方法で安楽死させる予定であった。						
3R	当該動物種と使用数を必要とする理由	管理栄養士養成課程では、人体解剖見学は行われておらず、人体模型の観察に加えて、ラットを用いて各臓器を観察することが一般的となっている。2年生3クラス構成となっており、各クラスを8班に分け、全24班で行った。1班あたり3～5名で1匹の解剖を行った。オスとメスの違いについては、2班を1組として、それぞれラットを交換して観察させることで動物の使用数の削減を行い、オス12匹、メス12匹が必要となる。					
	動物の苦痛軽減、排除の方法	常時換気、フィルターを通した内外ともに脱臭による臭気の除去、予想騒音は60～65 dB、室温23℃、湿度55%の環境に制御された飼育庫内で飼育は行った。飼育中は解剖前日を除き、げっ歯類用の飼料および蒸留水を自由に摂取させた。					
	動物実験終了時の安楽死の方法	三種混合麻酔薬（メドミジン+ミダゾラム+ブトルファノール混合麻酔）の腹腔内投与で深麻酔とし、心採血で脱血により安楽死させた。					
動物実験実施者及び飼養者	医療栄養学科 教授 加藤 隆幸、助教 宮路 茜、助手 長谷川 友梨						
東京医療保健大学動物実験委員会への申請・審査・承認・報告	本実験は、東京医療保健大学動物実験委員会規程に従い、東京医療保健大学動物実験委員会に申請、審査、承認、報告のもとに行われた。 申請日：2019年4月1日 承認日：2019年4月15日 報告日：2019年8月1日						